

浅間山

○火山活動度レベル（平成 18 年 1 月）

2（やや活発な火山活動）

○概況（平成 18 年 1 月）

火山性地震は中旬から増加傾向がみられ、下旬にはさらに多い状態となりました。火山性微動の回数や二酸化硫黄の放出量もやや多く、微弱な火映も観測されるなど、火山活動はやや活発な状態が続いています。今後も山頂火口付近に影響する程度の小規模な噴火が発生する可能性があります。

表 1 浅間山 火山情報の発表状況（平成 18 年 1 月）

火山情報名	発表日時	概要	レベル
火山観測情報第 1 号 ～（毎週 1 回発表） 火山観測情報第 4 号	6 日 16:00 ～ 27 日 16:00	最近の火山活動評価、火山活動の状況（噴煙・火映・地震・微動・地殻変動）。	2



図 1 浅間山 山頂火口からの噴煙の状況（1 月 12 日北側上空から撮影、群馬県の協力による）。
山頂火口の形状等に特に変化はなく、噴煙が火口縁上約 100m まで上がり南へ流れていた。

※この資料は気象庁のほか、国土交通省関東地方整備局利根川水系砂防事務所、東京大学、独立行政法人産業技術総合研究所及び独立行政法人防災科学技術研究所のデータ等も利用して作成しています。
本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50m メッシュ（標高）』を使用しています（承認番号：平 17 総使、第 503 号）。

○噴煙および火映の状況

山頂火口からの噴煙活動は引き続きやや活発で、噴煙高度は火口縁上概ね 200m（最高は 17～19 日の 300m）で推移しました（図 2-②、表 2）。30 日と 31 日の夜間には山麓の高感度カメラで捉えられる程度の微弱な火映が観測されており（微弱な火映が観測されたのは 2005 年 11 月 26 日以来）、火口内は高温状態が続いていると推定されます。（図 2-④、表 2）。12 日に上空から行った観測（群馬県の協力による）では、濃い噴煙のため火口内の状況は不明でしたが、火口周辺に新たな噴出物は認められませんでした（図 1）。

○火山ガス（二酸化硫黄）放出の状況

1 月 16 日と 30 日に実施した観測では、二酸化硫黄放出量は 1 日あたり 900～2,000 トン（16 日）、1,600～2,800 トン（30 日）で、前回（2005 年 12 月 15 日 300～400 トン）に比べてやや多い状態となっています（図 2-③）。

○地震および微動の発生状況

火山性地震の回数は、上旬はやや少ない状態で推移していましたが、中旬に入ってから日回数が 50 回を越えるなどやや多くなり、30 日以降はさらに増加して、30 日は日回数が 168 回、31 日は 115 回と多い状態になりました。（図 2-⑥～⑧、表 2）。なお、火山性地震は 2 月 6 日現在（期間外）も回数の多い状態が続いています。増加した地震のほとんどは周期の長い BL 型地震です（波形例は図 5）。これらの地震増加に際して、傾斜計や GPS による地殻変動観測では特段の変化はみられていません。

震源が求まった火山性地震のほとんどは山頂火口直下の深さ約 1～3 km に分布しており、これまでと比べて特に変化はありません（図 3）。なお、BL 型地震の震源は求まっていませんが、山頂火口直下の浅いところに発生していると推定されます。

火山性微動の回数は 17 日に 11 回と一時的にやや多くなりましたが、いずれも振幅は小さなものでした（図 2-⑤、表 2）。

○地殻変動の状況

GPS 連続観測（図 2-⑨）では、一部の基線で見られていた浅間山山体の膨脹を示すゆっくりとした水平距離の伸び（浅間山の深部へのマグマの注入・蓄積を示すと思われます）は、2005 年 6 月頃には停滞した状態となっています。また、気象庁による傾斜観測や気象研究所と共同で行っている光波測距観測（図 2-⑩）でも、火山活動の高まりを示すような変化はありませんでした。

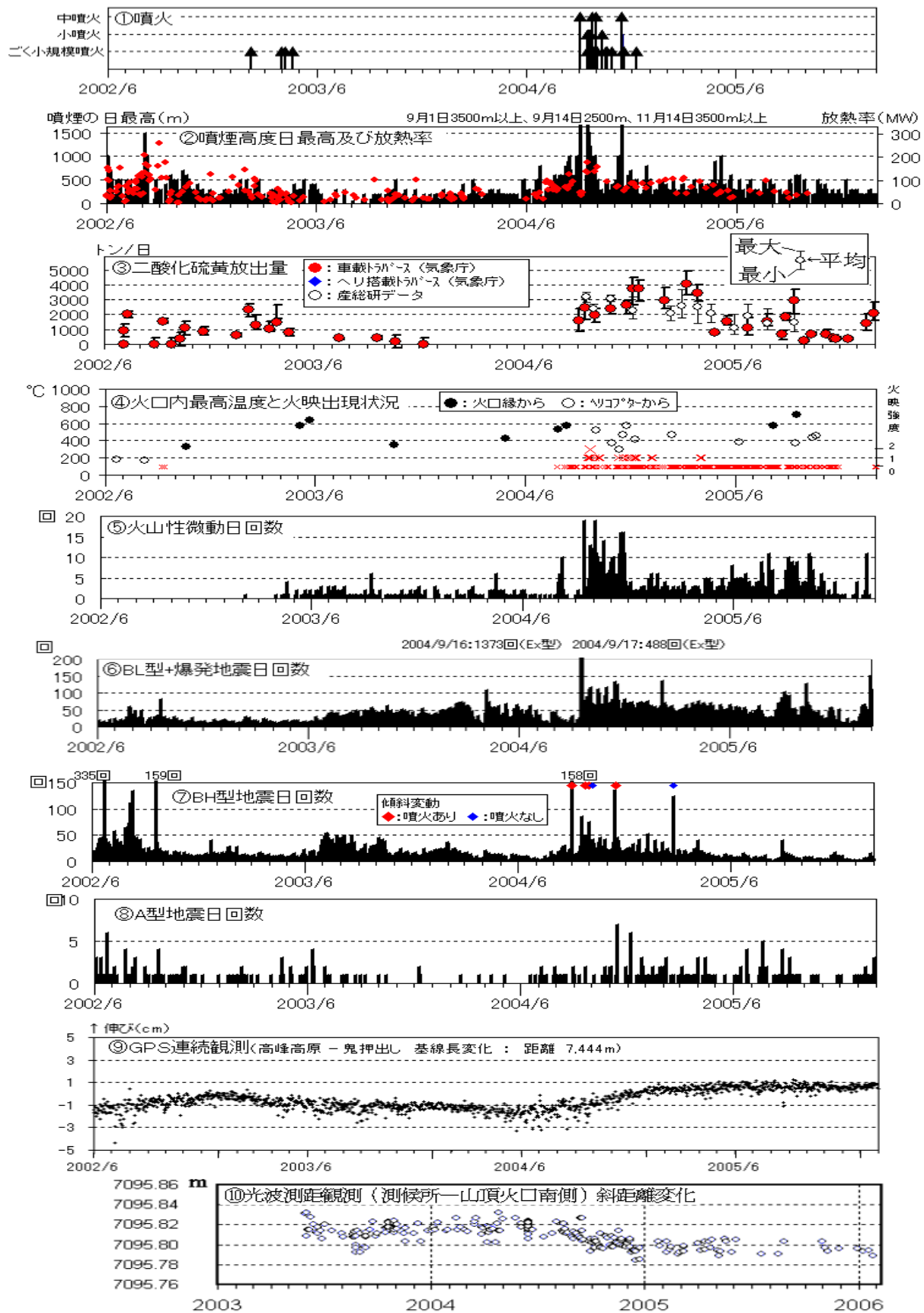


図2※ 浅間山 最近の火山活動の推移（2002年6月～2006年1月）

③の二酸化硫黄放出量グラフには産業技術総合研究所によるデータも含まれています。

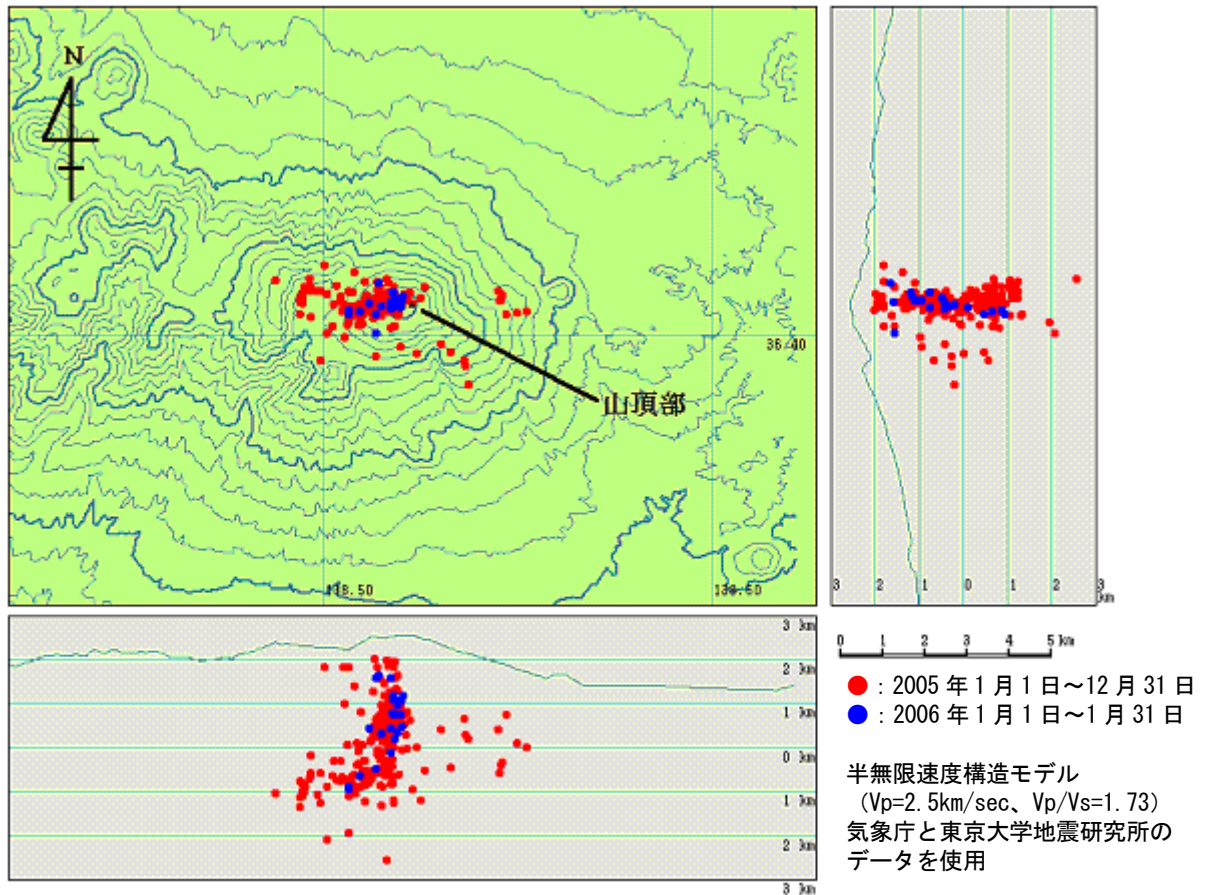


図 3※ 浅間山 火山性地震の震源分布（2005 年 1 月～2006 年 1 月）

震源はほとんどが山頂火口直下の深さ約 1～3 km に集中しており、今期間も特に変化はありません。

○観測点情報

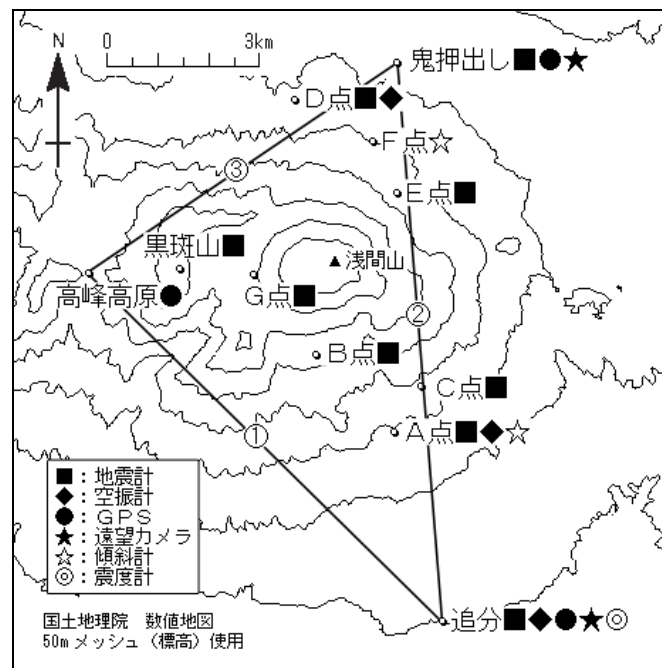


図 4 浅間山 気象庁の常時観測点配置図

（D 点傾斜計の運用開始は 2005 年 12 月 23 日）

表 2※ 浅間山 2006 年 1 月の火山活動状況

06年 1月	噴火の回数		火山性地震の回数 1)						微動 回数	噴煙の状況 2)		火映 強度 3)	備考
	中規模	小規模以下	A型	BH型	BL型	Ex型	その他	地震合計		日最高(m)	噴煙量		
1日	0	0	0	2	17	0	0	19	1	100	1	－	
2日	0	0	1	2	8	0	0	11	0	200	1	－	
3日	0	0	0	2	13	0	1	16	0	X	X	X	
4日	0	0	0	1	8	0	0	9	0	200	2	－	
5日	0	0	0	3	10	0	0	13	0	200	1	－	
6日	0	0	0	0	12	0	0	12	0	100	1	－	
7日	0	0	1	2	14	0	0	17	0	100	1	－	
8日	0	0	1	1	12	0	0	14	0	X	X	－	
9日	0	0	0	0	15	0	1	16	0	200	1	－	
10日	0	0	0	1	29	0	0	30	1	200	1	－	
11日	0	0	0	2	14	0	1	17	0	200	2	－	
12日	0	0	0	2	11	0	0	13	0	200	1	－	ヘリ観測：火口内噴煙の為不明。
13日	0	0	0	2	37	0	0	39	1	200	2	－	
14日	0	0	2	4	29	0	0	35	0	X	X	X	
15日	0	0	0	5	32	0	2	39	0	100	1	－	
16日	0	0	1	7	59	0	1	68	2	100	1	－	SO ₂ 放出量：900～2000トン/日。
17日	0	0	1	4	66	0	0	71	11	300	1	－	
18日	0	0	0	3	59	0	1	63	0	300	X	－	
19日	0	0	0	1	37	0	0	38	0	300	X	－	
20日	0	0	0	7	65	0	2	74	0	200	1	－	
21日	0	0	1	7	53	0	0	61	0	200	1	－	
22日	0	0	0	4	57	0	0	61	1	100	1	－	
23日	0	0	0	3	21	0	0	24	0	X	X	－	
24日	0	0	0	6	29	0	0	35	0	200	2	－	
25日	0	0	1	6	50	0	0	57	0	200	1	－	
26日	0	0	0	16	47	0	2	65	0	200	2	－	
27日	0	0	3	4	52	0	0	59	0	200	1	－	
28日	0	0	1	9	51	0	3	64	0	200	1	－	
29日	0	0	2	6	58	0	4	70	0	100	2	－	
30日	0	0	1	10	151	0	6	168	0	200	1	0	SO ₂ 放出量：1600～2800トン/日。
31日	0	0	0	4	107	0	4	115	0	100	1	0	
合計	0	0	16	126	1,223	0	28	1,393	17	300	2	0	最大値

1) 火山性地震の種類は以下の通りです。

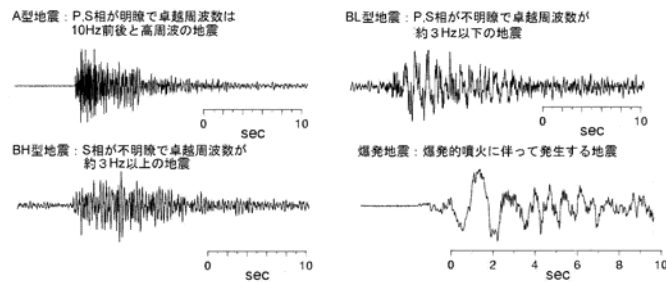


図 5 浅間山 主に発生している火山性地震の特徴と波形例

2) 噴煙の高さおよび噴煙量は定時観測（09 時・15 時）の日最大値です。噴煙量は 1～7 の 7 階級で観測しています。

1：極めて少量 2：少量 3：中量 4：やや多量 5：多量 6：極めて多量

7：噴煙量 6 以上の大噴火。噴煙が山体を覆うぐらい多く、噴煙の高さは成層圏まで達したとみられる。

3) 火映の強度は 0～3 の 4 段階で観測しています。

0：肉眼では確認できず、高感度カメラによってのみ確認できる程度

1：肉眼でようやく認められる程度

2：肉眼で明らかに認められる程度

3：肉眼で非常に明るい色で異常に感じる程度

－：火映なし ×：視程不良（終日観測できなかった場合）